

# 人格と心の教育を— 柔軟性ある保育者養成

貞静学園短期大学学長 奥 明子氏

—— まず、創立の理念と沿革について。

奥 学校法人貞静学園は、昭和5年に高橋満喜先生が保姆養成所と幼稚園を設立し、昭和22年貞静学園中学校、昭和23年貞静学園高等学校、さらに平成21年貞静学園短期大学を設立し、現在にいたっております。専門学校は来年の3月閉校予定ですが、保育学科2年生と介護福祉専攻科の学生が在学しています。本学の教育の理念は、「学問と人格の切磋琢磨」「心の教育」です。言葉で言うのは簡単ですが、実践にはなかなか難しいものがあります。

—— 例えば、活字は簡単ですが、これを体で覚えて学生達が身につけて継承し、伝えてもらわなければならないですね。

奥 専門学校は即実践に力を入れてきましたが、短期大学では、実践と研究のバランスのとれた保育者養成を主眼にし、保育者になるとはどういうことか、保育者としてどうあるべきかをきちんと基本から考えるという心の教育を大学の教育方針としております。そのためまず先生方に理解、認識していただかなければならないと思っております。教授会

でもそのことは毎回話させていたがいております。日常生活の先生方のきめ細やかな指導が学生達にとって必要なことで、地道な指導にも力を入れております。短期大学なので、研究だけではなく、職業的なものも養成していかねばなりません。

先生方がご自分の研究をすることはもちろんですが、学生達の指導にも力を注いでほしいと話させていたがいております。先生方も大学というのはこういうものだという認識を持って入ってこられることが多いので、ギャップを感じていらつしやる先生もいるかと思いますが、短期大学として生き残っていくためには、勉強、日常生活面で地道で細やかな指導が一番大切ではないかと思っております。

—— 自身、最近の人材が小さくなってきたのを感じます。幼児教育の時点でその子が何を持っているのか、保育士さんなり、お母さんにもより早く見つけていただき、子どもにいろいろなことを体験させることが大切です。絵を描く、走らせる、計算させる。好きなことをやらせれば、子どもは嫌がりません。そうすれば伸びていきます。大らかに育っていけば素晴らしい日本人が

できると思いますが。

奥 そうですね。今のお子さん達は型にはめられて、外れることがむしろ悪いという考えが多い中で、子どもの主体性や自主性をどのように伸ばしていくか、非常に難しい問題です。やはり、乳幼児期の家庭のしつけ、保育所、幼稚園の先生方の指導がその子の一生を左右しますので、保育所、幼稚園でどれだけ自由に活動できるか、どれだけ楽しく過ごせるかも子どもの成長に欠かせないこととです。また、私は家庭教育の重要性も訴えています。

—— 家できちんとしつけをすることで、学校でも学ぶ姿勢が身につきます。最近はそのれない。心もなぐ頭を下げています。心から先生に頭を下げて授業を受ける。これを伝えていただきたいですね。保育者がやればその教え子がやるようになる。子どもはいいことは学びます。

奥 それは特に大事なことです。最近の親御さんは私立小学校に通わせるために小さな頃から塾に通わせています。私自身は自然の中で育ってきたので、今の子ども達を見てみると考え方が狭く育っている気がします。



**奥 明子**(おく・あきこ)氏

岩手県生まれ。1975年明治大学大学院文学研究科修士課程修了。貞静学園保育福祉専門学校に勤務。その後貞静学園短期大学設置に携わり、2009年開学と同時に学長に就任。学校法人貞静学園理事、日本家庭教育学会常任理事・副理事長。著書に「楽しく学ぶ現代英語」「保育者になる人のための英語コミュニケーション」「日本における家庭の過去と現在」など。

—— 大らかさがなくていいよ。  
奥 保育者になるためには何が大切か、学生達自身に考えさせていくことが心の教育であると思っております。

—— どこかに連れていくことによって、大自然があるわけですから心の教育ができるんじゃないでしょうか。日本の男子、女子に魂の入った教育を教えてください。

—— 心乱れるものはボタンをはずしてみたりします。学ぶ心がなければ子どもでもだめなんですよ。そこで教育の姿勢について。  
奥 ものごとに対して謙虚に見て考えることが必要だと思います。それから、他人に対しての気配りも大事だと思います。今はとかく個人主義で、自分のことをするのに精一杯で人のことまで考えるゆとりがないまま育っている人が多いですが、人生を歩んでいく上で他人に対する思いやり、気配りは非常に大切だと私は思っております。そのことを徹底

的に学生達に教えていかななくてはならないと、それが私どもの役目だと思っております。  
—— 心の教育、人材育成について。

奥 どういう教育者を育成するかということでしょうか。保育所や幼稚園は子ども達にとって生活の場ですから、その場に適應できるように、また、保護者のおつきあひもありますから、一般常識、教養はもちろん、絶えず保育の研究を続け、それを深め、なおかつ協調性や謙虚さなどが持てるような人材です。難しい

ことではなく、ごくあたりまえのことをあたりまえにできる人材育成を意味しています。昨今の学生達は日本語能力が不足していて読めない、書けない、話せない等嘆かわしい状況です。小学校から本を読む習慣がついてなかったのか、テレビなどの視覚で育ってきている学生が多いので、活字を読んで読解力をつけないと、すべてに影響してきます。少しでも改善できるように読書感想文の宿題を出したり、新聞の切り抜きを集めてコメントを書かせる等々を心がけています。2年間でどこまでできるかは分かりませんが多方面から指導・支援をしていきたいと考えています。  
—— 貞静学園のこれからのビジョンを。  
奥 実践と研究のバランスの取れた、社会に役立つ柔軟性のある保育者の養成を目指しております。専門学校はこれまで80年の歴史を持ち、保育関係方面からかなりの信頼をいただいていますので、その信頼をさらに一層深め保育の世界に「貞静」という名前が浸透していきけるよう頑張っていきたいと思っております。